

さかいLRT研究交流センターの開設と活動

塚本直幸*・土橋正彦**・吉川耕司**・波床正敏***・ペリー史子****

1. さかいLRT研究交流センターの開設目的と概要

まちづくりや都市交通問題解決に対する LRT 整備の意義は十分に知られてはいるものの、わが国では LRT 新規開通への実際的な取組みは遅れている。新規開通のためにクリアすべき課題は多いが、最大の課題のひとつは、既存道路空間の再配分問題である。LRT に代表される路面公共交通の整備のためには、すでに過密なまでに自動車利用が進んでいる都市の道路空間の再配分が不可欠であるが、現在十分な社会的コンセンサスは得られていない。その主な理由としては、路面公共交通の整備が、自動車との比較優位性に関する議論に終始し、路面公共交通の整備は、都市の空間と環境の制約下でまちづくりを進める社会的選択であるとの議論が十分に展開されていないためと考えられる。道路は「公共的な」空間には違いないが、自動車利用者や沿道住民等の各ステークホルダーは、実は歴史的に形成された「私的な」空間利用の既得権を有しており、これら権利調整の問題をぬきにしては、限られた都市の道路空間を「誰がどのように使うのか」という再配分問題の解決は困難と考えられる。

一般に、LRT 整備を推進するためには、まちづくりに LRT 整備が果たす役割を市民にもわかりやすく説明し、社会的な合意形成を図ることが重要である。項目的には、都市交通手段としての LRT の利便性・優位性、中心市街地の活性化や美しい景観などの街づくりへの LRT の寄与などについて、既存の都市内交通との連携・有効活用とからめて明らかにしていくことである。

現在、堺市ではLRT新設計画が進められているが、当研究グループでは上記の問題意識に立脚して、かねてより地域との交流の中でLRT整備に関わる各種の調査・研究を推進することを目的として、地元で調査・研究・交流のための拠点づくりを計画していたところ、堺市との共同事業の形でこのようなセンターの開設が可能となった。この論文執筆段階ではまだ開設準備中であるが、発表時にはすでに活動を開始しているため口頭でその状況等について発表したい。

写真は準備作業中のセンター入り口の様子であり、平成17年5月30日より活動を開始する予定である。堺市内の山之口商店街の空き店舗を借用している。

2. 研究課題とセンター機能

(1) 研究課題と研究方法

センターにおける研究課題は当面以下の4点である。

- ① 道路空間再配分に関する社会的コンセンサス形成に関する研究
- ② LRT 整備と中心市街地活性化の関連に関する研究
- ③ 阪堺線等市内の既存交通との連携によるネットワーク形成効果に関する研究
- ④ LRT の景観まちづくりへの寄与に関する研究

本センターの役割は、「まちづくりに LRT 整備が果たす役割を市民にもわかりやすく説明し、社会的な合意形成を図る」ことを全体的な目的としていることから、単に分析結果を提示するだけでなく、地域との協働により LRT 整備にかかわる社会的合意を能動的に形成しようとするもの

* 大阪産業大学人間環境学部都市環境学科
〒574-8530 大阪府大東市中垣内3-1-1
TEL:072-875-3001 FAX:072-871-1259
E-mail: naoyuki@due.osaka-sandai.ac.jp

** 大阪産業大学人間環境学部都市環境学科

*** 大阪産業大学工学部都市創造工学科

**** 大阪産業大学工学部環境デザイン学科

である。また同時に、堺市 LRT はまったく新たに既存市街地部道路に軌道を敷設するわが国で最初の LRT となる可能性が高く、きわめて重要な先進的事例となることが期待されている。

以上のことから、本研究の方法論として以下のように行うものとする。

- ① 既存資料やアンケート・ヒアリング等により必要データの収集を行うのは当然であるが、研究過程および成果が、LRT 整備のためのコンセンサス形成に資するよう、地域との交流を重視する中でデータを収集・分析し、またオピニオンリーダーとして能動的に人々の意識の変革をもたらすような地域協働的アプローチを取る。
- ② 今後全国的な LRT 整備に資することができるよう、調査データを経年的に収集し記録・データベース化を図れるよう進める。



写真 さかい LRT 研究交流センターの開設作業風景

(2) センターの機能

さかい LRT 研究交流センターは、本研究を推進し地域との協働のための拠点である。本研究の方法論より、センターの機能は以下の3点である。

- ① 情報発信・提供機能
LRT とそれに関連するまちづくり、既存交通（阪堺線等）に関する情報を市民に対してわかりやすく発信・提供する機能
- ② 情報収集・記録機能
LRT 整備にかかわる各種情報・データを収集・記録する機能
- ③ 地域との交流機能
市民や関連する主体等と交流することで LRT 整備と研究を推進する機能

3. 最後に

本センターは、いわゆる研究者のアウトリーチ活動（Public Outreach）として行われるものであるが、単に「啓蒙」というものではなく、地域との協働により市民からも「啓蒙」されつつ能動的に LRT 整備に関わろうとする意図を持っている。執筆段階では、まだ本格的には活動していないが、研究のためのデータ収集・分析・提供以上の地域との交流がきわめて重要と考えている。活動を続ける中で、運用上の問題も含めて、各種の課題が生じるものと思われ、アウトリーチのひとつの形態（実験的な試み）として今後レポートしたい。